

令和4年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・導入で ICT を有効に活用することができ、生徒の興味関心を高めることができた。
- ・帯活動で学年によって様々な取り組みができた。
- ・音読を強化し、「読むこと」に対する意識を大きく変えることができた。

(2) 課題

- ・興味関心を高めることができたが、基礎基本の定着が徹底されていなかった。
- ・長文への対策が甘かった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	正答率は目標値を上回る。 区平均をやや下回り、全国平均を上回る。		
第2学年	正答率は目標値をやや上回ったが、区・全国の正答率とともに下回っている。	「場面に応じて書く英作文」以外は目標値を上回る。 (第1学年時)	
第3学年	正答率は目標値を上回る。 区平均をやや下回り、全国平均に等しい。	正答率は目標値を上回る。 区平均をやや下回り、全国平均を上回る。 (第2学年時)	実施していない (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を大きく上回り、全国平均とも同様もしくは上回っているものが多い。	正答率が目標値を上回り、全国平均とほぼ同様である。しかし、英文の完成に関する問いでは目標値を大きく下回る。	正答率が目標値を上回り、全国平均とほぼ同様である。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は目標値をやや上回ったが、区・全国の正答率とともに下回っている。	正答率は目標値をとほぼ同等であり、区・全国の正答率とともに下回っている。	正答率は目標値をわずかに上回っており、区・全国の正答率とともに下回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が区平均・全国平均をやや下回っている。特に語形・語法の知識・理解に課題がある。	正答率が区平均を下回っているが、全国平均を上回っている。長文の読み取りに課題がある。	正答率が区平均をやや下回るが、全国平均を上回っている。並び替えや場面に応じた英作文は良いが、3文以上の英作文に課題がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「話す」「書く」活動のバランスを考えながら、多くの場面でアウトプットの場を作り基礎的な学力の定着を図る。特に「書く」活動に関しては段階に応じ、量を調整していく。	基礎的な内容から発展させ、即興性を高めた活動を導入していく。 生徒が自信をもって活動できるよう支援する。	スモールステップで「できる」という体験を多くしていく。 また ICT を活用し、主体的に学ぶ態度を向上させていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
多様な音読を取り入れドリル練習を繰り返すことで、発話や読解の力を高める。また語彙力の向上、正しい語形や語法の理解を図る。単語や基本的な語法の基礎を固める。	辞書引き指導を継続し、語彙力向上、英作文・表現の能力向上につなげる。また、音読活動を継続することで、正しい文型や表現を定着させ、英作文の能力向上につなげる。	生徒が自ら課題に取り組む場面を積極的に設ける。また、タブレット端末を活用することで生徒のやる気を高い状態で保っていく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語や文法を、小テストやドリルアクティビティで確認し、基礎の定着を図る。「書く」「話す」についても基本的な活動を通して定着させる。	毎授業の帯活動に「読む」活動を取り入れ、スモールステップで定着をはかる。「聞く」「書く」「話す」技能を用いる課題を毎授業で設定する。	生徒同士で話し合う場面や自分自身について表現する課題を多く設ける。定期考査後などに、自分の現状を振り返り改善する課題を設ける。